Hokkaido Shin-Eiken Summer Workshop 2012

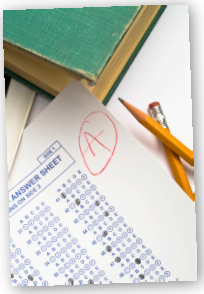
第３４回北海道新英研夏季研究会

テーマ　新学習指導要領の「英語の授業は英語が基本」を考える

理論学習＃１

文科省の目指す英語能力はどこにあるのか～CAN-DOリストと日本版CEFR

文科省は昨年の11月、「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策」を発表し、“CAN-DOリスト”による生徒の英語力の把握を計画しています。私たちが昨年、冬の研究会で学んだCEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）をその理論的根拠にしているようです。



ここでは、今一度CEFRの言語観・外国語学習（者）観をおさらいし、文科省の意図するところはどこにあるのかなど、一緒に考えます。

報告・北海道新英研共同代表

理論学習＃２

「英語の授業は英語で行なうことを基本とする」をどう受けとめるか～英語の授業のあり方を問う

高校の新学習指導要領による、英語の教育課程が来年度から始まります。「英語の授業は英語が基本」について、お二人の報告を交えながら、もう一度、英語教育の目的と方法，そして授業のあり方について、正面から考えます。

天野 由美香

市立札幌大通高校

日本語を活かした英語授業

英語授業における母語使用を肯定的に捉え、どう効果的に使用することができるか考察していただきます。また、今回の改訂を授業改善の契機と捉え直す議論が、参加者の明日からの授業へのヒントとなることと思います。

小山内 洸

北海道教育大学名誉教授

ユネスコ国際会議「勧告59号」にみる外国語教育の目的と方法

～条項８及び９をどう理解し、どう実践に生かすか

ユネスコの「中等学校における外国語教育に関する各国文部省への勧告５９号（1965）」は外国語学習の価値や、どういう目的や方法でそれが行われるべきかに触れた極めて重要な文書です。

この勧告はCEFRとの関連で、外国語教育の充実を図る言語教育政策としてみることもできますが、今回の理論学習では外国語教育の理念と方法に係る実践上の指針という角度から分析を深めていただきます。それを通して、新学習指導要領の抱える問題点を探ります。

と　き　2012年 8月9日（木）　９：３０～１６：００

会　場　市立札幌大通高校　札幌市中央区北２条西11丁目　☎011-251-0229

お申し込み お問い合せ　大口 久克　hisakatsu.oguchi@gmail.com　☎/fax 0137-84-4701

＊北海道新英研夏季研究会は、会員はもちろん、会員以外の方にも広く参加を呼びかけています。どうぞふるってご参加ください。